

東京バッハ合唱団 月報

[第 678 号] 2018 年 12 月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101

Tel: 03-3290-5731 Fax 専用: 03-3290-5732 郵便振替: 00190-3- 47604

Mail: office@bachchor-tokyo.jp http://bachchor-tokyo.jp/

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No.678

December 2018

5-17-21-101 Funabashi,
Setagaya-ku, Tokyo

《イエスわが喜び》に貫かれたエキュメニカルの日

大村 恵美子 (主宰者)

20 世紀になってから、世界のキリスト教会の一致を図ろうとする動きが、おもにプロテスタント教会を中心に起こりました。エキュメニカル運動、エキュメニズムなどと呼ばれます。1960 年代にはカトリック教会もこの運動に呼応するようになります (第 2 バチカン公会議)。戦後に本格化した日本のエキュメニズム運動も、2000 年前後から様々な試みが目につくようになりました。日本エキュメニカル協会も、こうした流れのなかで活動を開始されたようです。

そうしたなかで、東京バッハ合唱団がドイツのフライブルク大聖堂、およびシュトゥットガルト聖パウロ教会に招かれて、第 5 回ヨーロッパ巡演旅行を果たしたのが、2009 年 8 月のことでした。特にカトリックのフライブルク大聖堂では、東洋人の合唱団が、大聖堂の主日ミサで、しかも J.S. バッハのミサ曲 (プロテスタント教会の礼拝音楽) を演奏するのは全く異例・初めての出来事、エキュメニズムの潮流の中で大いに意義深いこと、と大歓迎されました。南吉衛牧師の仲介のおかげで成立したシュトゥットガルトでも、東西ドイツ合併 (1991 年) 後は、国政からの独立という建前により、個人の自由意思に運営が委ねられることになったキリスト教会が、経済的にも社会的にも、従来の勢いを失いつつあるという危機意識に襲われはじめたところでした。それで、はるばる極東から訪れた私たちに、深い友情と共感を表わしてくださり、バッハのカンタータ第 191 番 (ラテン語原詞) をパウロ教会聖歌隊のメンバーと合同演奏して、お集めいただいた大聴衆に大いに喜んでいただきました。

コラール《イエスよ、わが喜び (Jesu, meine Freude)》も、その時の思い出のひとつなのです。この 17 世紀のコラール (J. フランク詞、J. クリュエーガー曲) と、新約聖書ローマ書からのテキストを縫い合わせたバッハのモテット (BWV 227) が、今度は、東京の国際基督教団・代々木教会で、カ

コラール《イエスよ、わが喜び (Jesu, meine Freude)》も、その時の思い出のひとつなのです。この 17 世紀のコラール (J. フランク詞、J. クリュエーガー曲) と、新約聖書ローマ書からのテキストを縫い合わせたバッハのモテット (BWV 227) が、今度は、東京の国際基督教団・代々木教会で、カ

日本エキュメニカル協会主催
第 2 回 講演と音楽の集い「洗礼と聖餐」

日時: 2018 年 11 月 3 日 (土)、14:00 - 17:00
会場: 国際基督教団・代々木教会 (吉本真理牧師)
<講演>

- ・「世界を旅する教皇フランシスコの視点と課題」
山岡三治 (イエズス会司祭、上智大学名誉教授)
- ・「洗礼と聖餐」
松山與志雄 (日本エキュメニカル協会理事長)

<音楽>

- ・オルガン演奏: 松居直美、J.S. バッハ作曲《イエスよ、わが喜び》BWV 1105 ほか
- ・合唱: 大村恵美子指揮・東京バッハ合唱団 (新妻由加ピアノ伴奏)、J.S. バッハ作曲《イエス よろこび》(モテット第 3 番) BWV 227 ほか

<会衆讃美> 讃美歌第 2 編 93 「わがよろこび」

トリック教会と日本基督教団の各講演者、諸会派の信徒や一般の音楽愛好家の方々をあつめた場所で、11 月 3 日 (かつては明治天皇生誕の祝日だった、現在の〈文化の日〉) に演奏されたのでした。何やら、わが国の維新の成果を象徴するにふさわしいパフォーマンスだったと、考えられるではありませんか。

今年は〈明治 150 年〉とかで、西洋音楽の本格的到



▲日本エキュメニカル協会「講演と音楽の集い」リハーサル風景 (2018/11/3, 国際基督教団代々木教会. 撮影: 千葉光雄・団員)

森井先生白寿に寄せて

小海 基（団員、日本基督教団荻窪教会牧師）

今日のお祝いの言葉を述べた中で、私だけが生身の森井眞先生にお会いするのが今日初めてという人間です。森井先生ばかりでなく、先ほどスピーチされた八木誠一先生とも初めてお会いする者です。初めてといってもお二人とも何冊も著書では出会っていますが。

白寿おめでとうございます。創立以来、いやそれ以前からの東京バッハ合唱団への先生のご支援に団員として感謝しています。

私は牧師をしまして、カルヴァン研究者としての森井先生の著書に啓発されていますが、そのこと以上に、特に先生が明治学院大学の学長をされていた時代以来、フェリス女学院大学の弓削達学長らと共に、この国の右傾化に対して、先頭に立って声を上げ続けていられる姿に、いつも敬意を覚えている一人です。当時弓削先生宅には右翼の銃弾さえも撃ち込まれました。

わが国によく居る「カルヴィニスト」を自称する者の多くは、象牙の塔に籠ったまま時代と正面から向かい合いもせず、声を潜めていたのと実に対称的でした。人文学者であり、宗教改革者として命を懸けていたカルヴァンの実像に近いのはそうした臆病な「カルヴィニスト」たちではなく、森井先生だと思ったものです。

私は牧師をしながら、東京バッハ合唱団では団員としてバッハのカンタータを楽しみつつ、牧している荻窪の地が日本のライブツィッシヒにならないかと願っています。トマス教会でバッハがカンタータを生み出したライブツィッシヒ。メンデルスゾーンやシューマン、ゲーテ、ワーグナーまで育んだライブツィッシヒ。そして東西ドイツを隔てていた分断の壁を「月曜祈祷会」とその後続くローソクデモで崩していったリベラルで文化の光輝くライブツィッシヒです。東京バッハ合唱団が荻窪教会を練習地としてくださったおかげで、私の教会と隣の西荻窪にある本郷教会（淡野弓子さんの東京シュツツ合唱団の本拠地）の二つの教会で、年間数十曲のバッハのカンタータが演奏されていて、これは実は本場のザクセンのライブツィッシヒをしのいでいるかもしれません。

ますます先生にはこれからも先頭に立って声を上げ続けていただきたいと願っていますし、私たちのバッハの歌声を支援し続けていただきたいと願っています。

来も約 100 年、そのうち東京バッハ合唱団もまた 56 年間、日本に〈世界音楽〉を呼びこみ、培われる努力をつづけて来たというわけです。日本エキュメニカル協会の理事長でいらっしゃる、松山與志雄先生から、11 月 3 日のお招きをいただいた時、私は、わが合唱団も、まさしくこの極東の後進国にあって、地球の真のグローバル化に参加させていただける、重責と喜びを担わせられた生き甲斐に、心打たれ、迷うことなくこのモテット《Jesu, meine Freude（訳詞演奏歌詞では「イエス よろこび」）》を選曲して、お答えしました。

松山先生は、このイエス思慕のコラールとパウロの「ローマ人への手紙」との関連が、エキュメニズムの企画にふさわしいと同意してくださり、オルガン演奏の松居直美様も、演目にこの同じコラールによる独奏曲を、「ノイマイスター・コラール集」と「オルガン小曲集」から各 1 曲ずつ入れてくださいました。その結果、私たちはこの日に、

- 1) オルガン独奏……BWV1105、BWV610
- 2) 合唱……BWV227（モテット第 3 番）
- 3) 会衆讃美……讃美歌第 2 編 93 番「わがよろこび」と、目、耳、口、心を全開にして、このコラールに

浸り切ることが出来ました。

もし外国人の方が、多くいらしたのなら、何か国語もの歌詞で、同時に歌い合わせることもできたでしょう。過去に 5 回、海外巡演をした時も、毎回、私はバッハの音楽を原語（ドイツ語）で歌うとともに、1 曲だけ、私訳の日本語訳カンタータ、モテットを紹介しました。それがまた好評を博し、「あなた方の心が、直かに伝わった、間違いなく受けとめられた」と、目に涙しながら訴えられたものです。一方、東京に、ライブツィヒ・トマス教会聖歌隊やドレスデン十字架合唱団が来演した時には、《クリスマス・オラトリオ》の合唱曲などを、ドイツ語と日本語とで、同時に共演することも出来ました。

11 月 3 日の講演で松山理事長が、「世界教会」を話されましたが、人類が一致するには、言語の違いにさまたげられることを、理想的な形で突破することも、大いに必要となるでしょう。殺し合いが宿命のように諦められる固定観念から、この面でも積極的に尽力しなければと、あらためて心に念じました。核武装なんて、とんでもない見当違いです。新年に、さらなる神のご加護をと祈ります。

月報 12 月号 CONTENTS

- ・《イエス わが喜び》に貫かれたエキュメニカルの一日（大村恵美子）……p.1
- ・森井先生白寿に寄せて（小海 基）……p.2
- ・おたより（宮田光雄）……p.3 / 生命・自然を破壊するすべての仕組みを抹消する決意（大村恵美子）……p.3
- ・第 117 回定期ご案内……p.3 / 第 118 回定期予告……p.4
- ・日本語版バッハ・カンタータ、新刊 4 点同時発行……p.4

[前号月報に紹介しましたとおり、去る 10 月 11 日、市ヶ谷のアルカディア市ヶ谷（私学会館）を会場に、当合唱団の団員・旧団員で、元明治学院大学学長の森井眞先生の白寿のお祝い会が開催されました。同号には、出席者・八木誠一様（団員・新約聖書学）のスピーチ原稿も紹介させていただきましたので、あわせてご覧ください]

おたより

宮田 光雄 様より

大村恵美子様

異常気象の長い夏のあと、[仙台は] 短い秋に終わろうとしています。その後お変わりなく御活躍の御様子で嬉しく存じます。先月には小著を早速に完読下さり—最初の完読者です！—長文の御感想を届けて下さりお礼申し上げます。小生としては70年の信仰生活の総括として、プロテスタントとしての信仰告白を集会の仲間を示しておきたい気持ちで書きとめたものです。

この度は月報誌上に尊敬する宗教改革研究者の森井先生による御高評をお載せ下さり、御厚志に深く感謝しています。これまで専門家による公開の書評に接しなかった丈にとっても感激いたしました。著者の意図するところを实的に的確簡潔にとらえて下さったことにも、それにしても白寿の御年齢とは思われない力強い筆の運びには目を見張り、小生自身やや退嬰的になりかかっていたのを立ち直らせて頂きました。

目下『福音と世界』12月号のバルト没後50年の特別企画のため巻頭エッセイををまとめています。若い同志だった天野有君が食道癌で急逝去され——川端[純四郎]君も同じでした——心痛めています。一筆御礼まで。御祝福と共に！(10月28日)

生命・自然を破壊する すべての仕組みを抹消する決意

大村 恵美子 (主宰者)

ノーベル平和賞が取りざたされる秋を迎えるや、さっそく北朝鮮・韓国・アメリカの首脳たちの名があがって来たのには、驚きました。マスコミでも、ひょっとすると有りうる、というような傾きも公に論じられ、それが蓋をあけて見るとみごとに外れて、戦場での女性保護の2人にノーベル賞が向けられたのには、さすが、と胸をなでおろすことが出来たものです。

人類が殺し合い、痛めつけ合いをするのは、未来永劫止められないという説は、かなり強力で、みんな諦

【後援会・団友の皆さま】

- 第117回定期演奏会は、右記のとおり、都内2つの会場でのクリスマス教会コンサートとなります。
- 両会場とも席数に限りがあり、また「入場無料」といたしますので、心苦しい限りですが、今回もまた、後援会員の皆さま全員に「招待状」をお出しすることができません。
- お手数ですが、右掲「予約のお申し込み」欄の要領にて、お名前をご登録いただければ、安心してご来場いただけます。当日の受付にてお名乗りいただき、ご入場ください(招待券・整理券は発行いたしません)。

第117回定期演奏会

“天使と羊飼いのクリスマス” —《クリスマス・オラトリオ》第Ⅱ部を中心に—

◆日時と会場：2018年12月22日(土)【二部公演】

【A】午後2時開演、日本キリスト教団・荻窪教会

【B】午後6時30分開演、同・三崎町教会(水道橋)

◆入場無料(自由献金)：どなたでもご自由にご来場ください。両会場とも定員あり【下記参照】

◆曲目

(1) カンタータ第28番《頌むべきかな 年終り》BWV 28

1. アリア(S)：頌むべきかな 年終り 新たな年 迫りぬ
2. 合唱：主を頌めまつれ み名 わが内に！
3. レチタティーヴォとアリオーソ(B)：主 言いたもう；われ喜びて かれらに恵みを授けん

4. レチタティーヴォ(T)：恵みは 泉とあふれ
5. 二重唱(A/T)：主は この年を 愛(め)でたまひぬ
6. コラール：み恵み讃えよ 天(あめ)なる父

(2) 《クリスマス・オラトリオ》BWV248 より
第Ⅱ部「この地に野宿して 夜」(全曲)

10. シンフォニア
 11. 福音史家(T)：この地に野宿して 夜
 12. コラール：清らのあけぼの 光を放て
 13. 福音史家(T/S)：み使いかれらに言う；おそるな
 14. レチタティーヴォ(B)：神は アブラハムに むかし
 15. アリア(T)：牧人らよ 行けやゆけ
 16. レチタティーヴォ(S)：みどり児は 布につつまれ
 17. コラール：いぶせきうまやに 光満ちみちて
 18. レチタティーヴォ(B)：されば ゆけ 牧人よ
 19. アリア(A)：眠れ いとしきみ子よ
 20. 福音史家(T)：たちまちみ使いらに 天の軍勢加わり
 21. 合唱：栄(は)えあれ み神に
 22. レチタティーヴォ(B)：この日 成し遂げられしことを
 23. コラール：み使いとともにおわれら頌め歌わん
- 第Ⅲ部「あまつ君よ 聞きたまえこの響きを」(抜粋)
34. 福音史家(T)：牧人ら帰りぬ 頌め歌いつつ
 35. コラール：喜べ み神は いまこそ
 24. 合唱：あまつ君よ 聞きたまえ この響きを

◆演奏：

F1 山田恵美子、Ob 土屋愛菜、Vn 中川典子

KB 菅原 光、Org 田尻明葉

合唱/斉唱 東京バツハ合唱団、指揮 大村恵美子



●両会場とも定員となり次第、入場を締め切らせて頂きますので、予めご了承ください。定員は、ご予約を含め、【A】先着100名、【B】先着250名です。なお、とくに【A】会場では混雑が予想されますので、お席の確保にはご予約をお勧めします。

【予約のお申し込み / お問い合わせ】

●会場【A】/【B】の別と、①お名前、②人数、③確認用メールアドレス / 電話番号、④ご住所を明記のうえ、

- ・メール (office@bachchor-tokyo.jp)
- ・はがき (156-0055 世田谷区船橋 5-17-21-101)
- ・ファックス (03-3290-5732) ・電話 (03-3290-5731) で。

めの気持ちで聞いているようですが、これは運命ではなく、私たち自身が乗り出して、一日も早く、軍備・核兵器・攻撃・侵略 etc.……の一連の行為を、死語として葬り去らなければなりません。過去のノーベル賞でも、国家首脳への平和への裏切りを見抜けずに、何人もの戦争責任者たちを、平和賞の受賞者に仕立ててしまっています。言葉だけを信じず、地についた実践者のみを厳選して平和賞を授けなければならないのです。

今でも、どこに住んでいる住民も、放っておけば、やさしく迎え入れてくれて、便利で良質の商品が自由に買え、おいしいものが安心して味わえる国を選んで、旅行したり、そこに住みついたりします。昨今は、日本がその1位にあげられているようで、面映ゆいようではありますが（進行中の国会での外国労働者論議の欺瞞！）、それも敗戦後70年ものあいだ、戦争の惨禍にこりごりした日本人が、侵略して殺人を犯すことを堅く拒み切れたからでしょう。平和ぼけで退屈し出した低能者どもが、又もや、戦争で一発儲けるか、などと衝動的な愚見をわめいてもいるようです。ノーマルな人間と自認する人々は、「しょうがないなあ、人間てものは」などと、のんきな〈ひとごと〉の姿勢でいてはならない。人殺しの手段・悪意で金儲けしたり、出世したりするのを、未然に潰滅させるべく、大いに力を顕在化させましょう。又もや日本は、内から墮落する瀬戸際に立っています。新年早々にも、目をはっきりと見開いて、邪道から王道へと、この国を引っ張ってゆきましょう。

ブライトコプフ [日本語版] バッハ・カンタータ楽譜集 最新刊、11月20日、4冊同時発売!!

- カンタータ第79番《神は わが光 盾》Gott der Herr ist Sonn und Schild BWV 79 (ISBN 978-4-925234-80-1、2100円)
- カンタータ第109番《われは信ず わが主よ 援けたまえ》Ich glaube, lieber Herr, hilf meinem Unglauben BWV 109 (ISBN 978-4-925234-81-8、2000円)
- カンタータ第166番《いずこへ 主よ 行きたもう》Wo gehest du hin BWV 166 (ISBN 978-4-925234-82-5、1800円)
- カンタータ第188番《わが堅き望み》Ich habe meine Zuversicht BWV 188 (ISBN 978-4-925234-83-2、2000円)

今回の発行で、既刊曲数は77曲になりました。バッハの残したカンタータ（確かな伝承のもの）190余曲の、3分の1を優に超えましたが、残り120曲にはあと30年ほど？ みなさん、どうぞ長生きなさってください。

第118回定期での上演は、第79番をのぞく3曲が、日本語上演初演です。

楽譜のお求めは、事務局まで。



～ 東京バッハ合唱団〈118 定演〉の曲目を 日本語で体験してみましょう ～ 公開ワークショップ「バッハを日本語で歌う」

<参加無料・見学歓迎>

会場：日本キリスト教団 荻窪教会

日時：2019年

① 1月12日（土） } 両日とも、15:30 - 17:30

② 1月14日（月/祭） } 会場は、荻窪教会

（ふだんの月曜の練習は目白聖公会ですが、当日にかぎり、ひきつづき荻窪教会です。時間・会場とも、ふだんと異なりますのでご注意ください）

* * *

118 定演に登場する6つのコラールと2曲の冒頭合唱を日本語歌詞で音取りしてみましょう（指導：大村恵美子）。バッハの合唱は初体験の方も、原語ドイツ語の経験者も、お気軽に体験してみてください。2回連続、1回でも可。目標は、5月のステージ！

当日、ご希望者に楽譜コピーを配布します（A4判・50ページ、実費250円。会場にて）。

●参加ご希望の方は、①お名前、②声部、③確認用メールアドレスまたは電話番号、④ご住所を明記のうえ、事務局まで メールでお申込みください。

メール office@bachchor-tokyo.jp

<次回公演予告>

第118回定期演奏会

- ◆日時：2019年5月18日（土）午後2時開演
- ◆会場：府中の森芸術劇場ウィーンホール
- ◆曲目：J.S.バッハ（日本語上演・大村恵美子訳詞）
・カンタータ第109番《われは信ず わが主よ 援けたまえ》

Ich glaube, lieber Herr, hilf meinem Unglauben BWV 109

・カンタータ第166番《いずこへ 主よ 行きたもう》

Wo gehest du hin BWV 166

・カンタータ第188番《わが堅き望み》

Ich habe meine Zuversicht BWV 188

・カンタータ第79番《神は わが光 盾》

Gott der Herr ist Sonn und Schild BWV 79

◆演奏：

[ソプラノ] 光野孝子 [アルト] 谷地畝晶子

[テノール] 鏡貴之 [バス] 小藤洋平

[室内楽] 東京カンタータ室内管弦楽団

[オルガン] 新妻由加

[指揮] 大村恵美子

入場券：全自由席3500円

（発売開始2018年12月）

お問い合わせ：事務局（本紙タイトル囲み内）

—参加団員募集—

練習開始の1月12日（土）と14日（月/休日）の両日を、公開のワークショップとします。詳細は上記。